

# 愛泉会 セミナー

1人ひとりが学び成長できる職場となるよう、今年も法人内・事業所内の研修に力をいれています。

## 令和5年度キャリア採用研修について

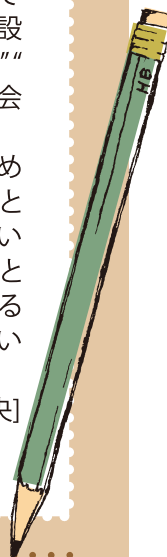
7月25日(火)に山形市総合福祉センターにてキャリア採用研修を開催いたしました。これまで様々な法人内研修を実施してまいりましたが、コロナウイルス感染症の影響もあり、キャリア採用および年度途中の入職者に対して、愛泉会のこれまでの取り組みや基本理念等を伝えるための研修を十分に実施することができていなかったことから、今年度はキャリア採用等で入職した職員を対象に、愛泉会の理念やこれまでの取り組みを伝えることを目的としてこの研修を実施いたしました。

当日は井上博理事長より「利用者に学ぶ」をテーマに講話をいただきました。これまでの

愛泉会の取り組み、そして現在の法人の考え方とこれらについて、1時間という限られた時間の中でお話しをいただきました。参加した職員からは“設立当時から今話を聞くことができよかった”“話を聞くことで、自らの今後の支援を考える機会となった”といった感想が寄せられました。

今回の研修のように、愛泉会の基本理念を改めて確認し、これまでの支援をふりかえる機会というのは、とても大切な学びの場であると思います。今後も職員1人ひとりが成長できる職場となるよう、様々な研修を企画、実施し、さらなるソーシャルワークの実践につなげてまいりたいと思います。

[創造企画部 支援員 塚田 実央]



## 令和4年度の実践研究内容を 3号にわたり、ご紹介いたします。

### 第2弾 「多機能型事業所なかやま虹の丘」

## 利用者と地域がつながる事業所づくり

多機能型事業所なかやま虹の丘は、就労継続支援B型事業と生活介護事業の2つの事業があります。

B型事業の生産活動はコロナ禍で「祭り花」の受注が少なく、フルーツキャップの折り返しとチラシ折り組合せ作業の2つをメインに受注納品し利用者の工賃へ繋げています。毎週水曜日、製品を納品する際に担当者の方と利用者が関わるようにしています。「仕事」とおして担当者の方が利用者に対してどのような印象を持っていらっしゃるのだろうと思いお話しを聞いてみました。担当の方にいただいたご意見を利用者の皆さんと共有することで、仕事に対する「やりがい」や「目的」が明確になり、地域とのつながりの中で事業所としてもステップアップしていけるのではないかと思います研究テーマに取り上げてみました。

実際にいただいたご意見は「いつも元気よく挨拶してくれるのが、とても気持ちいいです」「仕事もきっちりと丁寧に仕上げただけなので信頼してお任せしています」と好印象のご意見をいただきました。また、生活介護事業所においても、地域の

コンビニにエコバックを置いていただき地域の方々にご利用いただいています。こちらコンビニの方にお話しを聞いて、利用者と共にしています。年代・障がいに関係なく、利用者1人ひとりの特性にあった活動を行うことで、働く喜びや人々から必要とされる喜びを感じながら笑顔で豊かな生活を送って貰えるような事業所づくりを継続していきたいと思います。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。  
[多機能型事業所なかやま虹の丘 支援員 高橋愛郎]



## 愛泉会の各委員会より

## 芸術活動推進委員会『表現担当者会議について』

愛泉会では、長年、障がいのある方のアート活動による表現に着目し支援する取り組みを実践していますが、具体的な支援方法や環境づくりがわからず支援者が悩みを抱えてしまうことが多くありました。そこで、芸術活動推進委員会ではアートによる表現活動を担当する支援者の会議(表現担当者会議)を定期的に開催し、支援者が利用者の生み出す表現を紹介する情報交換と支援する中での悩みを共有しています。会議は、やまがたアートサポートセンターら・ら・らスタッフが進行し、報告される表現に対して専門的な視点でメッセージを送り、支援者の悩みや疑問には具体的なアプローチ方法と共に助言を行っています。

この会議に参加する度、いつも驚かされることがあります。それは、ひとつの表現に込められた利用者の思いと表現が生み出されたストーリーを熱く語る支

援者の生き生きとした表情です。それは、日々、利用者の生み出す表現に寄り添い、面白さ楽しさ喜びを利用者と共に共有しているからこそできる姿であり、福祉の仕事のやりがいをこの会議をとおして再確認しています。また、多様な方々の自由な表現をさらに広く多く発信していくために支援者の育成を目的とした研修会を開催しています。研修会のテーマによっては、アートサポートセンター企画研修に参加し地域の福祉事業所やデザイナー、アーティスト、学校、行政と共に学びを深めています。

今後もより多くの方々の表現が誕生し、その表現が多くの人の心に届けられる支援現場を目指していきたいと思います。

[デイサポートさくら デイサポートたんぼ工房 所長 深瀬 和美]

## 日々是好日

愛泉会で働いて...

愛泉会には様々な職種があり  
多くの職員が働いています。  
今回はその“職種”にスポットをあてました。

障害者支援施設  
向陽園  
リーダー事務員  
土田 美智



平成17年福祉の世界へ飛び込んで、早いもので18年が経ちます。愛泉会には平成27年に入職し、向陽園一筋に過ごして来ました。支援員とは違い利用者との直接的な関わりは余りありませんが、縁の下の力持的なサポートを心掛けています。

日々新しい発見があり、本当に福祉の仕事は良い仕事だと改めて感じます。コロナ禍で様々な経験とおし、職員同士が連携しあい、気遣い、助け合うワンチームになり、その一員である事は有難いですが、定年まで笑顔多めに楽しく業務していければと思います。

デイサポート  
たんぼ工房  
運転手  
会田 悟



たんぼ工房の支援員(送迎)として勤務してから早や2年半が経過しようとしております。

前職(医薬品メーカーのMR)を定年退職した私にとっては人生第二の勤務先となりますが、幸運にも前職でたんぼ工房と同様な福祉施設等にも訪問する機会が度々あり、ある程度は施設の特徴等を頭に描きながら最初から抵抗もなく勤務する事ができましたが、異業種から来た私にとって周りの職員の心配りが一番難しいことだと感じております。今後も前職時代で得た貴重な経験を活かし中々終息が見えないコロナ等の感染症対策について職員のバックアップや支援面では利用者1人ひとりの障害性を十分に理解し日々安全運転をモットーに今後も業務を遂行していきたいと思っております。

グループホーム  
支援センター  
心音 世話人  
荒木 綾



グループホーム支援センター心音でお仕事をさせていただき2年が経ちます。

世話人として食事作りをしていますが、利用者との関わりで気づくことがたくさんあります。みんなで生活をしていけばいろいろなことがあります。利用者の笑顔や楽しそうな様子を感じ、日々仕事に励む力をいただいています。しかし、時々利用者の対応を難しく思うこともあります。職員の方の対応を見て学び、1人ひとりに信頼してもらえるような知識を深めていけたらと思います。自分の作った食事を食べてもらえることで感じるやりがいを大切に、これからも日常の食事を楽しみにしてもらえよう心がけていきたいです。